

如月 愛南文芸

篠南川柳会

「寒」

寒い日は是が一番頼被り

芝田

えさ有るか廃家宿の寒はずめ

もつちゃん

寒い朝着ぶくれ老いの押し車

すみ子

厚着して寒さこらえて春を待つ

千代子

寒ければ嬉し嬉しと二十代

木本

寒い日の重ね着爺様素敵だね

ちずる

身も寒いサイフも寒い年の暮

保美

「メーン」の声素足の子等は寒げいこ

さつき

寒くても弁当作りかかせない

みち子

寒空に白い息まう通学路

安子

菊川俳句会

葉喰窓辺にふれてとける雪

浅野勇一郎

冬温し小枝の先に乗る子猿

長田 高明

ふるさとの昭和のかおりいもの餅

長田千恵美

茜雲開きて昇る初日の出

小野山シマ子

はじめまして。赤ちゃん。

12月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

12月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

朔の夜ガラス窓碧くオリオン

鶴川 裕子

年の瀬や萬事好都合の愛顔

中川 一喜

初生りの小さき一つの袖湯かな

西川 和代

福々とふくら雀や福を呼ぶ

村尾加都子

さらび短歌会

安岡留美子

庭の木の剪定なし終え脚立より降りれば師走の日は傾きぬ

幼児期に湯タンポにより火傷せし痕が亡母への思慕につながる

終着駅までの齢の道しるべ吾「喜寿」妻「古希」元気にクリア

石段を踏み締め登る氏神の森の静けさ心に染みる

元日の東の空にくつきりと鯛の頭の白雲浮きおり

正月の餅つく杵の音聞かずなりて久しき暮のわが里

娘と孫にはめはやされて繕いし発熱靴下夫のはきゆく

餅花を飾りて母の病室に昔語りを聴く晦の夜

幼き手両手に包みゆつくりと膝折りに聞くあのねの話

孫の見るお笑いの芸につらされて久しぶりに大笑いする

わが指を握りて笑まふみどり児を抱きて歩む初春の庭

松本マス子

藤井 擴

澤近 正弘

野崎 幸子

扇野八代生

前田 昭夫

河上 明美

前田 知子

岩村千代子

水野美代子

前田 充

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。